

岐阜にお住まいの女性(61歳)からの質問をいただきました。

### 質問

87歳の実母のことでお知恵を拝借できればと思い投稿させて頂きました。私は母(足が不自由なため車椅子で過)しており、軽い認知症です)と夫の3人暮らしです。

先月、母と一緒に病院に行ったところ、母が末期の胃がんで肝臓にも転移していることがわかりました。現在入院中ですが、意識ははっきりとしていて受け答えも会話も出来ます。医師から病気の説明があり家族の意向を尋ねられましたが、夫と相談の上「家で、最後を迎えさせてやりたいとも思います」と伝えました。12年前、父もやはり癌で亡くなっているのですが、父が亡くなってしばらくして母が「私かもしれない時は告知はしないで欲しい」と言っていましたので、母にはまだ病名のことば伝えていません。母に告知をしたほうがよいのでしょうか、それとも告知をしないので最期まで過ごさせてあげたほうがよいのでしょうか。夫や姉夫婦とも相談しま

# 在宅医療は健幸医療

長尾 和宏

医療法人社団裕和会・理事長  
長尾クリニック・院長



### お答えします

私は59歳で貴方は61歳。ほぼ同級生からのご質問、ありがとうございます。以下、かなり個人的見解ですが、なにかの参考になれば幸いです。

### 「告知」ではなく「分かり易い」説明

お母さまにがんの告知をするかしないかというご質問。これはお医者さんからもよく受ける質問です。たしかに30年前はまだ、がん＝死のイメージが強かったので、「告知」という言葉が使われました。そして「がんを告知するか、しないか」が、がんの医学会でも大きな議論になりました。あれから30年。がん全体の5年生存率は7割という時代になり、がん＝死ではなくなりました。私は一昨年、「がんは人生を二度生きられ

## 「告知」「余命」……もつと言葉を大切に使う緩和ケア医を主治医に

る(青春出版)という本を書き、今もこの演題で講演を依頼されるくらいに時代は劇的に変わりました。しかし、それでもがんは死因の第一位であり続けることもあり、どうしても「死」というイメージがつきまといがちです。12年前にお父様のがん闘病を見たお母さまはどんな理由で「私の時は告知しないでね」と言われたのが気になります。「痛み苦しんだ」のか「精神的に落ち込んだ」のでしょうか。気が弱いのでしょうか。おそらく夫と同じようになりたくない、という想いから発せられた言葉なのでしょうか。

そもそも私は、「告知」という言葉が大嫌いで私からは使いません。「説明」で「分かり易い話」でいいのではと思います。ご家族

や本人に聞く時も「どこまで説明を聞きたいですか?」と尋ねてからお話しをします。家族の承諾なしに本人にがんの説明をしたり、怒り狂う家族が実際におられるからです。私は「告知するかどうか」ではなく、相手の受け止め方を観察しながら「どんな説明をすることが本人と家族にとってベストなのか」という視点から考えて話します。たしかに「本人には絶対に病名は言わないで欲しい」という家族は今でも少なくありません。家族で意見が分かれる場合は「家族内でよく話し合ってから代表者と話ししましょう」と提案します。しかし本人が「なんでも隠さずに説明して欲しい」とか「隠しても私は分かっていますからね」と言われることも増えました。現実には、中等度以上

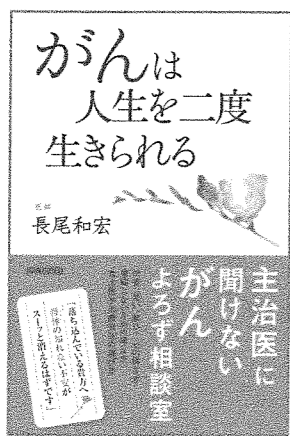
の認知症が無い限りほとんどの場合、本人は自分ががんであることを分かっていると感じます。あるいは「家族のために知らないフリをしてあの世に行きます」と打ち明けてくれる患者さんもいます。

一昨年「家族という病」という本がベストセラーになったように、医療においても家族の問題は実に厄介です。家族と本人の意向が180度食い違い、その狭間で苦勞することがいくらかでもあります。いや、その方が一般的かもしれません。しかしお母さまのように本人から「告知しないで欲しい」と言われることは稀です。もしそう言われたらそれが本人の意思なので尊重します。それも「リビングウイル」だと思います。ただその言葉はかなり以前の言葉であることが少し気にかかります。人間の気持ちは日々揺れ動き、たった一日で言うことが180度変わることはよく経験します。ですから現在もそんな気持ちなのか、さりげなく確認しておいたほうがいいでしょう。

### 治療をしなければ半年の余命

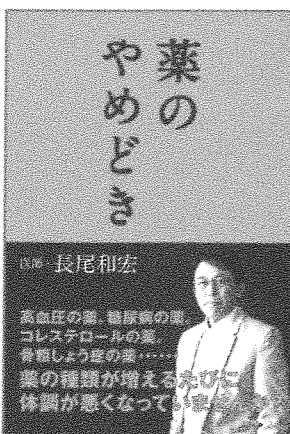
「治療をしなければ半年の余命」。これも

本文で長尾先生がお話されていた書籍！



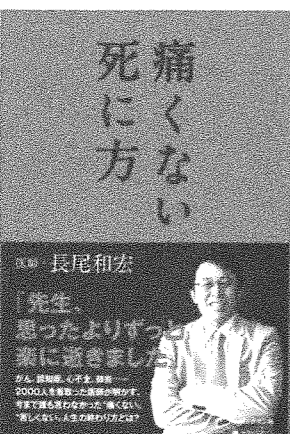
著者：長尾 和宏  
出版社：青春出版社  
価格：1000円+税

## がんは人生を二度生きられる



著者：長尾 和宏  
出版社：ブクマン社  
価格：1300円+税

## 薬のやめどき



著者：長尾 和宏  
出版社：ブクマン社  
価格：1000円+税

## 痛くない死に方

私が大嫌いな言葉です。これは抗がん剤治療をしたくてしょうがない医師の常套句。脅迫に思えてなりません。その医師に聞き返してみてください。「もし貴方のお母さんならどのように説明しますか？」と。87歳で肝転移と聞くと、治療しないことをお勧めめします。そもそもがんの余命なんて、治療してもしなくても、大きく外れることが稀ではありません。余命半年という言葉は吐かれた患者さんが無治療で何年も生き、なんて話は世の中にゴロゴロあります。ついでに「余命」という言葉も大嫌いです。「人間は生まれた瞬間に余命80年」であるし、余命予測は当たることもあるけども大きく外れることも少なくない、からです。医師はステータジ別の統計から「余命」を告げているだけで、個々の事情により大きく異なることに思いを馳せないといけません。私は「余命〇カ月」という呪いをかけることに凄く抵抗があります。だから「今年は越えられないかも」とか「来年の桜はどうかかな」など、ある程度を含みを持たせた言葉で説明をすることが医師の務めだと思えます。

この連載はこれまで毎回、大人しく書いてきました。しかしここだけは強い口調で言っておきましょうか(笑)。

正直、こんな言葉を吐く医者とは早く別れて、言葉を大切に使う緩和ケア医を主治医に選ぶことをお勧めします。あるいは万一、TS1のような飲み薬の抗がん剤治療をするとしても、今の主治医ではなくて、抗がん剤の「やめどき」や「緩和医療」を知っている医師を主治医に選んでください。しかし緩和医療という言葉を使うだけで怒り狂う子どもさんがいます。拙書「抗がん剤・10のやめどき」(ブクマン社)という小説の中にもそんなシーンが登場します。息子さん私の胸ぐらを掴むという実際に経験した光景ですが、この認識も間違いです。緩和医療は決して諦めでもまやかすではありません。立派な第4のがん治療とも呼ばれています。適切な緩和医療は長期生存をもたらすという世界的な科学論文が出ていることも知っておいてください。また抗がん剤や放射線治療を受けながら並行して受ける必要があるのが緩和医療である、という基本中の

基本も知ってください。きつといつか役に立ちます。

## 永遠の嘘をついてくれ

偉そうに書いてきましたが考えてみれば、これまで患者さんにはずいぶん嘘をついてきたような気がします。しかしあくまでそれは患者さんの利益のための「嘘」であり、決して家族やまして私自身のための嘘では無かった、つもりです。

大好きな吉田拓郎さんと中島みゆきさんがコラボした作品に「永遠の嘘をついてくれ」という歌があります。男女の関係には中途半端な嘘ではなく、どうせつくだいあれば「永遠の嘘」のほうがいい場合があるのでしょう。

昨年、エンドオブライフケア協会の1周年記念シンポジウムの中で私は講演の最後にこの歌を歌いました。すると歌の1番の途中から急に涙があふれ出てきて、まったく歌えなくなるという醜態を晒しました。これまで「永遠の嘘」をついてあの世に旅立たれた患者さんの顔が頭の中にたくさんフラッシュバックしてきて、なぜだか「申し

訳ない！」という気持ちになってしまいました。講演で泣いたのは人生初めてで、あまりの号泣ぶりに自分でも驚きました。「こんなにも感情失禁してしまい、歳をとったなあ」と呆れました。あれ以来、この歌は封印していますが、嘘をついたことに自分分はこんな反応をしているのか、と思いません。しかし世の中には「上手な嘘」という言葉があるように、その人のために優しい気持ちで嘘をつくことは「アリ」だと思っております。「必ず告知するとかしないとか」拘子定規に決めることには意味を見出せません。医療とはコミュニケーションそのもの

であり、患者さんやご家族の御意向を尊重し顔色を見ながら臨機応変に上手な説明をすることこそが医者のスキルであるときえ思えます。たくさんの在宅看取りを重ねてきた医者は、おそらく説明上手なのだと思像します。こんなスキルを馬鹿にする医者があるのもたしかですが、私は同業者のそんな声は気にしません。

患者さんとご家族の笑顔のためならば、緩和医療のすべてのツールを使うし、必要とあらば嘘でも平気でつける人間でありたいです。今後、いつか在宅医療に移行した

時に、この文章を是非主治医選びの参考に使ってください。「長尾っていう医者はけしからんな」という在宅医ではなく、賛同や共感をしてくれる医師に大切なお母さまのいのちを託してください。詳しくは拙書「痛くない死に方」(ブクマン社)を是非読んでください。また在宅医選びには11月中旬に出版される私が監修した冊子「さいごまで自宅で診てくれるいいお医者さん」(週刊朝日ムック)も是非参考にしてください。肝心なことは遠くではなく、できるだけ近くで探すことです。

# きらめき

プラス

Vol.59 霜月



江戸押絵羽子板

二代目 西山鴻月

石川真理子の玉手箱

石川真理子